

# 花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドングリ王国立ててく

国立第七小学校 平成25年9月9日 NO.38

やじるしの少し黒いところが、たまごをうみつけたところ



ほしい人、自分で育ててみたい人にはプレゼントします。校長室まで取りに来て下さい。数（かず）に限（かぎ）りがあります。早い者勝ちです。大切に育てて下さい。

花ちゃん 「どうして、どうやって、ドングリにあなをあけるの。それから、どうして、どうやって、枝（えだ）を切（き）って地面（じめん）に落（お）とすの。」

モンタ博士 「まず、ドングリにあなをあけるといっただろう。上の写真（しゃしん）を見てごらん。何か気がつかないかい。」

オー君 「モンタ博士！黒（くろ）い点があるよ。なんだろうね。ひょっとして、ここにあなをあけたんですか。」

モンタ博士 「そうだよ。黒い点があるのは、どんぐりのおわんだけど、そこはすべらないから、あなをあけやすいのかもしれないね。まず、長い口で深（ふか）いあなをあけて、おしりの産卵管（さんらんかん）を入れてたまごを一つだけうむんだよ。」

オー君 「ほとんどのハイイロチョッキリなどが、そこにあなをあけるんですか。」

モンタ博士「まず、落ちているコナラの枝を10個（こ）くらい調（しら）べてごらん。」

オー君 「よーし！調べてみるぞ・・・ふむふむ。ほとんど、黒い点があるぞ。」

モンタ博士「そうだろう。モンタ博士は、落ちているコナラの100個でしらべたことがあるけど、ほとんどがおわんに黒い点があるんだ。つまり、そこにたまごをうんだということさ。つぎに、そのおわんのところをむいてごらん。」

花ちゃん 「あ！おわんの下のドングリにも同（おな）じところにあながあるぞ。」

モンタ博士「そうだろう。実験（じっけん）や観察（かんさつ）というものは、自分（じぶん）で見たりためしたりすることが大切（たいせつ）さ。本に書いてあったからといっても、それで、『はい、そうですか。』で終わりにしてはつまらないもんね。」

オー君 「ところで、モンタ博士、枝を落とすということですが、どうしてですか。」

モンタ博士「そこがおもしろいところなんだけど、幼虫がたまごからかえると、ドングリの中身（なかみ）を食べるんだ。その後に、地面（じめん）の下でさなぎとなるんだよ。そのために、地面に枝を落とすというわけさ。」

花ちゃん 「あのう…なぜ落とすかはわかったけど、どうやっているんですか。」

モンタ博士「それはね、枝の切（き）れたところを虫メガネで見ればわかるよ。」

オー君 「うわー！きれいに切れている。これって、自分で切り落としたということだ。」

花ちゃん 「あなをあけて、たまごをうんで、枝を切り落とす。それを一匹ですべてやるのね。すごいわ。」

## 2ミリの枝を切る苦労

たった1cmちょっとの虫が、2ミリ程の枝をとともきれいに切り落とします。単純に考えて1.2cmの虫が2ミリの枝を切るということは、大きさを考えて120センチの子供が20センチの丸太を切るようなものです。それも、ノコギリも何もなくて、口だけで…。こりゃすごい。生への執着心。生命維持、遺伝子存続のすさまじい戦いがそこにはあります。写真の左の5つは、モンタ博士が手で折った断面、右の5つは、ハイイロチョッキリが切り落とした枝の断面です。ルーペで見ると、またまた驚き！間違い無しです。



きたない切り口